

壬生町橋梁長寿命化修繕計画 (横断歩道橋含む)



国谷宮前橋 1999 年架設

概 要 版

令和6年12月



壬生町

目 次

§ 1 長寿命化修繕計画の概要	1
1-1 背景	1
1-2 目的	2
§ 2 対象施設の現状	3
2-1 対象施設の現状	3
2-2 建設年次の施設数分布	4
§ 3 計画全体の方針概要	5
§ 4 点検結果の分析・整理	6
4-1 点検の実施状況	6
4-2 施設毎の健全性	7
4-3 点検結果の分析	8
4-4 管理橋梁の主な損傷	9
§ 5 長寿命化修繕計画	11
5-1 老朽化対策	11
5-2 新技術等の活用	16
5-3 費用の縮減に関する具体策	17
§ 6 長寿命化修繕計画による効果	18
§ 7 個別の構造物ごとの点検・修繕等に関する計画	19
END	22

§ 1 長寿命化修繕計画の概要

1-1 背景

壬生町では平成 23 年度に「橋梁長寿命化修繕計画」を作成し、壬生町が管理する橋長 15m以上の橋梁 10 橋の長寿命化修繕計画を行ってきた。

平成 24 年 12 月 2 日に起こった笹子トンネル天井板落下事故を機に国土交通省では本格的にメンテナンスサイクルを回すための取組みに着手した。

○道路法改正【H25.6】

- ・点検基準の法定化
- ・国による修繕等代行制度創設

○インフラ長寿命化基本計画の策定【H25.11】

『インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議』

⇒インフラ長寿命化計画（行動計画）の策定

○道路法施行規則【H26.3.31 公布、7.1 施行】

（道路の維持又は修繕に関する技術的基準等）

⇒点検は、近接目視により、五年に一回の頻度で行うことを基本とすること。

○道路橋定期点検要領【H26.6】

- ・2m以上の道路橋が対象
- ・定期点検は 5 年に 1 回の頻度で実施
- ・点検は近接目視点検が基本
- ・健全性の診断は必要な知識や技能を有する者が行う
- ・健全性診断の判定方法の統一
- ・診断結果に対する措置の実施
- ・定期点検及び健全性の診断結果並びに措置の内容を記録

これにより壬生町では平成 26 年～平成 30 年にかけて管理する橋長 2m以上の橋梁 152 橋について定期点検を実施し、点検結果や橋梁のデータを蓄積するとともに平成 30 年度に策定した橋梁長寿命化修繕計画に基づき維持管理を実施してきたところである。

本計画は、令和 2 年度に国が道路メンテナンス補助事業制度を創設し、新技術などの活用検討等によりさらなる維持管理コスト縮減を図ることが必要になったことから、現在までの整備状況を踏まえ対象橋梁の整理を行うとともに、橋梁長寿命化修繕計画の見直しを行うものである。

1-2 目的

●現状の課題

①急速な老朽化

平成 26 年（2014 年）より法定点検を行い、1 巡目の点検結果から措置を継続的に実施してきたが、平成 30 年度（2018 年度）に策定した長寿命化修繕計画時点から補修が必要な橋梁（健全性Ⅱ・Ⅲ判定）数が約 40%から 60%と増加傾向にある。

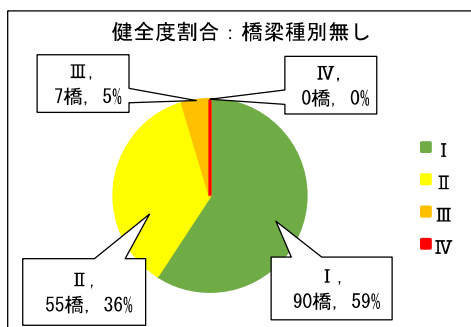


図-1.1 平成 30 年度健全性集計

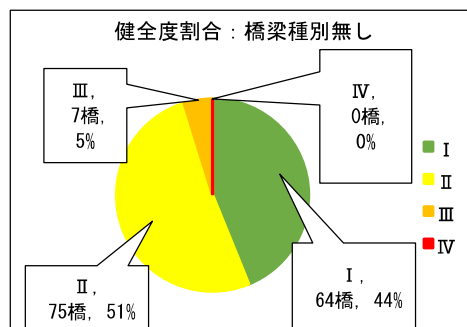


図-1.2 令和 4 年度健全性集計

②小規模橋梁の維持管理

壬生町が管理する施設の約 60%は 5m 未満の小規模橋梁である。架設年次が古く、構造的に問題のある形式のものもあるため、効率的な維持管理方針を立案していく必要がある。

③将来への懸念

橋齢 50 年を超える高齢化橋梁が 20 年後には全体の約 90%と急速に増加するため、早急に予防保全へ移行しなければ必要予算が膨らみ、安全な施設を維持出来ない。

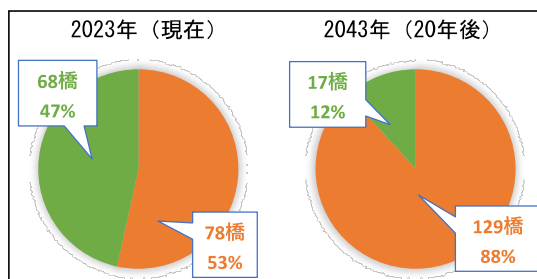


図-1.3 橋齢 50 年以上橋梁数

●計画の目的

壬生町の橋梁長寿命化修繕計画における目的は、以下の通りである。

町民の日常を支える交通を守るため、道路ネットワークの要である橋を維持する

- ・橋梁長寿命化
損傷の早期発見・早期措置で橋梁の寿命を延長
- ・予防保全への転換
事後保全型から予防保全型へ移行し、Ⅲ判定にさせない
- ・新技術等の活用によりコスト縮減
新技術等の活用で現実的な費用縮減目標を設定
- ・予算平準化
中長期の投資額を検討し健全性を維持できる費用を設定

§ 2 対象施設の現状

2-1 対象施設の現状

現在、壬生町が管理する施設数は、道路橋 145 橋、横断歩道橋 1 橋である。

本計画で実施する長寿命化修繕計画は、「橋梁長寿命化修繕計画策定業務委託（平成 31 年 3 月）」で実施された橋長 2m 以上の橋 152 橋のうち、圃場整備による改修・架替え等で管理対象から除外となった 8 橋に、道路橋で通学橋、横断歩道橋で安塚歩道橋を加えた 146 橋に対して実施した。

橋梁種別は「PC 橋」「RC 橋」「溝橋（ボックスカルバート）」「鋼橋」「歩道橋」に大別され、橋梁の種類は図-2.1 に示すように、橋長 2m 以上～15m 未満の橋梁に多い橋種である RC 橋と溝橋で約 80%を占めている。

橋長別の割合は図-2.2 に示すとおり約 60%が 5m 未満の橋梁であることから、橋長の短い橋をいかに効率的に管理していくかが課題となる。

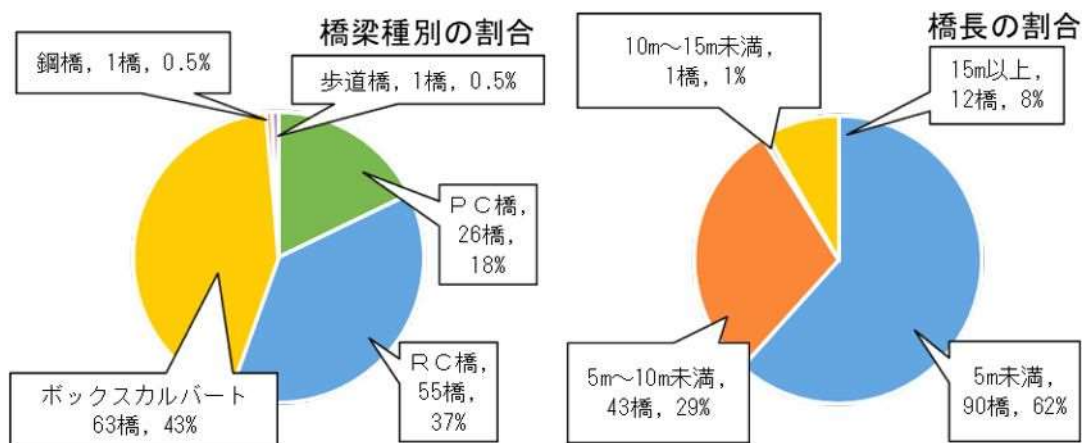


図-2.1 橋梁種別の割合

図-2.2 橋長の割合

橋長と構造形式は図-2.3 に示すとおり、橋長 10m 未満では RC 橋と溝橋の比率が多い。橋長 15m 以上では PC 橋の比率が多くなる。構造的に長スパンに適した構造形式であるためである。

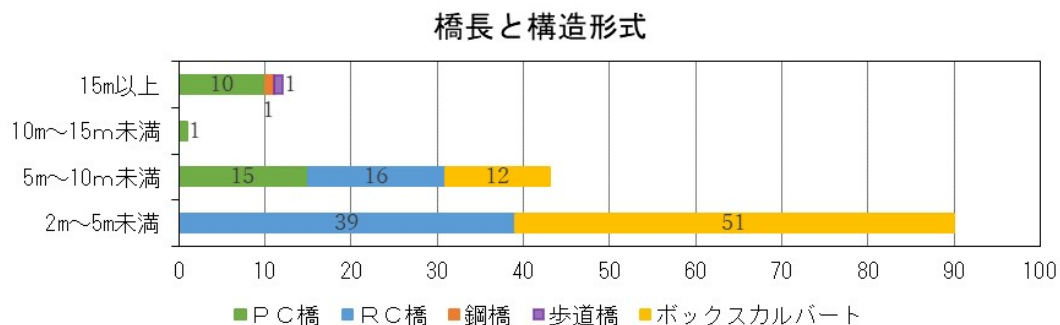


図-2.3 橋長と構造形式

2-2 建設年次の施設数分布

対象施設 146 橋（内 竣工年不明橋 121 橋は推定）の供用年次別の架橋状況を図-2.4 に整理した。その多くは圃場整備に合わせ建設された橋梁で、建設後 50 年以上の高齢化橋梁は現在では 53%、今後 10 年で 56%となっている。しかし、20 年後には高齢化橋梁は約 90%と急激に増加する。

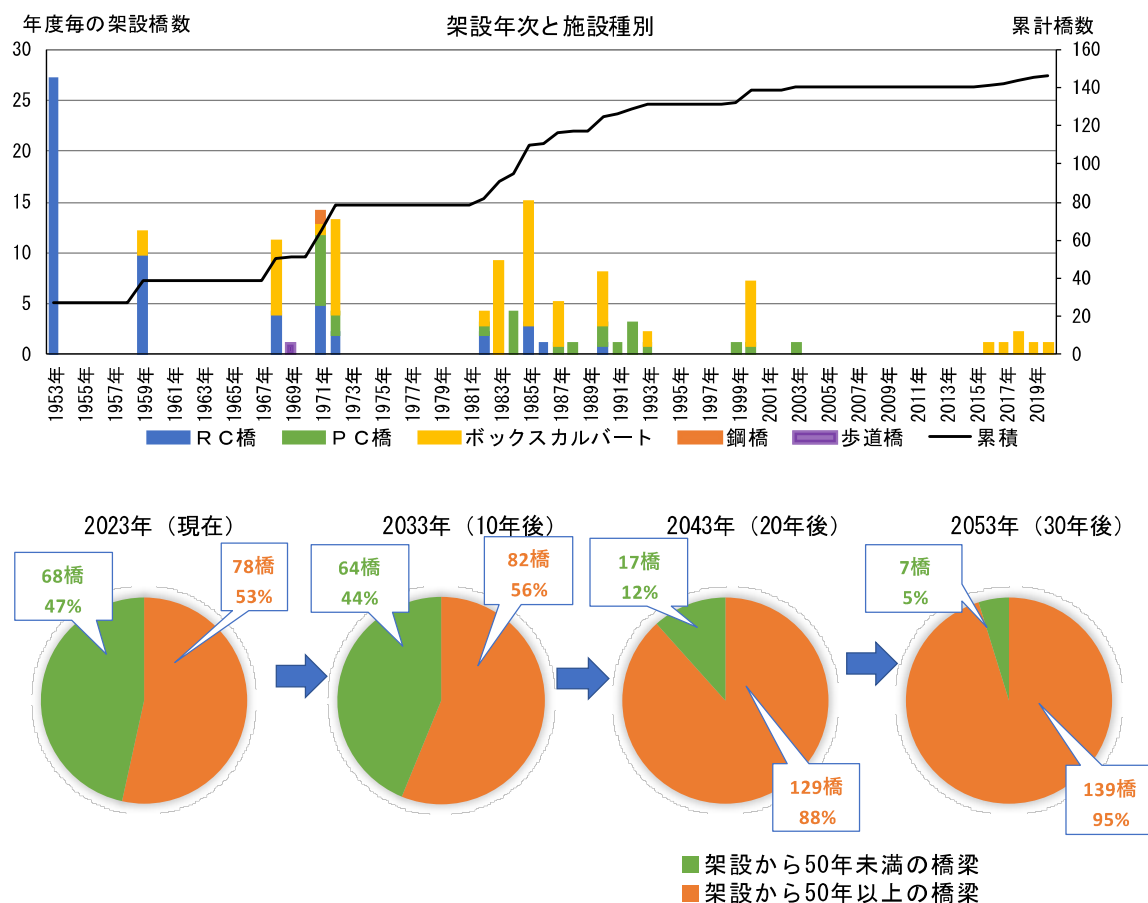


図-2.4 架設年次別橋梁現状

§ 3 計画全体の方針概要

(1) 老朽化対策における基本方針

＜点検＞

橋梁および横断歩道橋の定期点検は国の最新基準に則り実施することとし、5年に一回の頻度で行うことを基本とする。

橋梁や横断歩道橋を良好に保つため、日常的な維持管理として清掃や土砂詰まりの除去等、比較的対応が容易なものについては日常の維持作業により措置する。

＜修繕＞

定期点検結果より、変状状況に応じた修繕を実施します。健全性Ⅲの施設は、早期（5年程度以内）に補修・補強を実施する。また、健全性Ⅱの施設についても、優先順位の高い施設から修繕を行う。

(2) 新技術の活用方針

橋梁および横断歩道橋の法定点検や修繕等の実施に当たっては、「NETIS登録技術」や「点検支援技術性能カタログ」などを参考に新技術等の活用を検討し、費用の縮減や事業の効率化を図る。

(3) 費用の縮減に関する具体的な方針

＜点検・修繕＞

点検、修繕等の事業費を縮減するため、全ての橋梁および横断歩道橋に対して新技術等の活用や事業の効率化等の検討を実施するとともに、コスト縮減可能な新技術等は、継続的な調査、監視を行い更なるコスト縮減に努める。

＜集約化・撤去＞

施設の集約化や撤去、機能縮小については、社会経済情勢や施設の利用状況等の変更に応じ、施設の再配置計画を実施し、維持管理費用の削減を図る。

§ 4 点検結果の分析

4-1 点検の実施状況

橋梁の点検は、管理する橋梁の安全性や耐荷性に影響を及ぼす損傷や変状を早期に発見し、必要な対応を適切に行うことによって、安全で円滑な交通を確保することにある。また、対策が必要な損傷に対して、その原因や対策工法を検討するための情報を得るためのものである。

以下に定期点検の実施状況を示す。

(1) 定期点検基準

壬生町の管理する橋梁の定期点検は、国の最新基準に則り実施する。

現段階の最新基準は、下記の通りである。

道路橋定期点検要領 平成 31 年 2 月 国土交通省 道路局

横断歩道橋定期点検要領 平成 31 年 2 月 国土交通省 道路局

(参考基準)

橋梁定期点検要領 平成 31 年 3 月 国土交通省 道路局 国道・技術課

橋梁アセットマネジメントを導入するための点検マニュアル(案)

平成 27 年 3 月 栃木県 県土整備部道路保全課

(2) 定期点検頻度及び方法

橋梁の定期点検は、5 年に 1 回の頻度で行う。点検方法は近接目視点検を基本とする。

(3) 健全性の診断

部材単位・橋梁単位での健全性の診断を行う。

区分		定義
I	健全	道路橋の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

4-2 施設毎の健全性

最新の定期点検結果を図-4.1 に示す。健全性Ⅰの橋梁が44%を占め、予防保全が望まれる健全性Ⅱの橋梁が51%、早急に補修が望まれる健全性Ⅲの橋梁が5%となっている。緊急措置が必要となる健全性Ⅳの橋梁は存在しないが、補修が必要な橋梁が約60%を占める。

橋梁別の健全性の割合についても、各橋種とも「Ⅲ」＋「Ⅱ」判定の橋が60%程度であり、施工年次が古いために損傷が多くなっている。

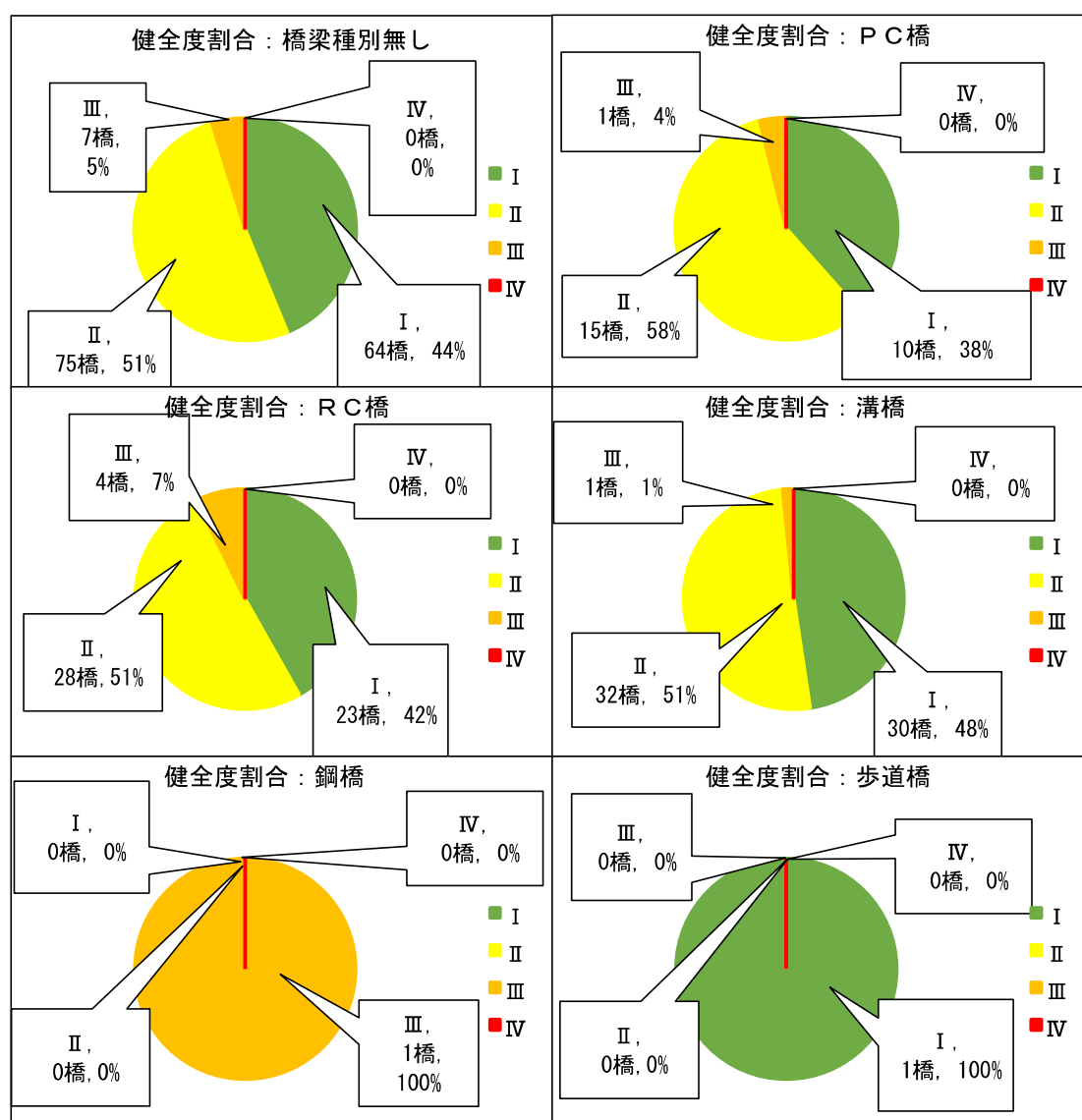


図-4.1 橋梁毎健全性判定の集計

4-3 点検結果の分析

対象施設（道路橋 145 橋、横断歩道橋 1 橋）における健全性診断は、橋梁点検結果から損傷状況を整理して表-4.1、図-4.2 に整理した。なお、「橋の健全性」は、主な部材である「床版、主桁、横桁、下部工、支承」の健全性における最低値となる。

「Ⅲ」＋「Ⅳ」判定の損傷は、主桁と下部工が多い。これは、架設年次が古く、老朽化が進行したRC橋に損傷が集中しているためと推測される。

表-4.1 部材毎健全性判定結果の集計

橋の健全性	橋梁	主桁	横桁	床版	下部工	支承	その他
I	64	88	138	138	101	144	62
II	75	53	7	7	42	2	83
III	7	5	1	1	3	0	1
IV	0	0	0	0	0	0	0
合計	146	146	146	146	146	146	146

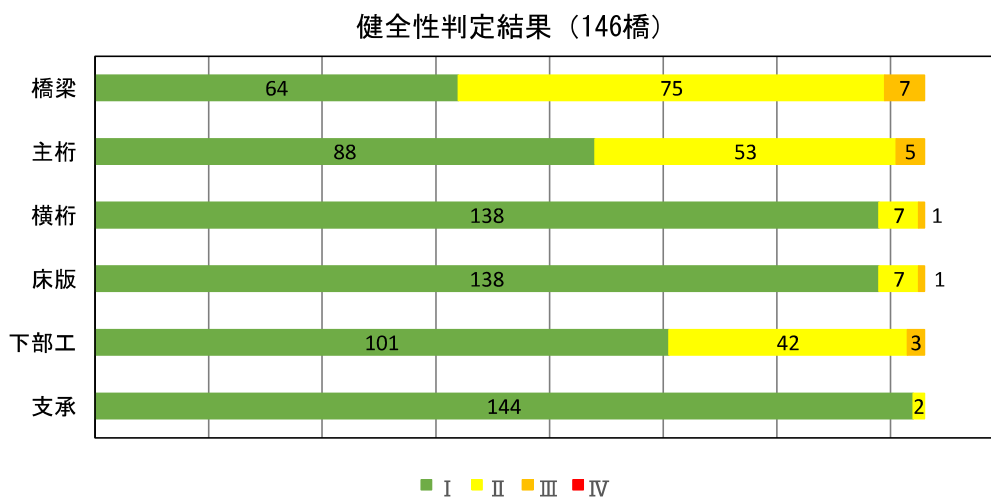


図-4.2 部材毎健全性判定の集計

4-4 管理橋梁の主な損傷

これまでに実施した点検結果から、上部工、下部工のひびわれや剥離・鉄筋露出、下部工基礎部の洗堀等の損傷が多く見られる。

管理橋梁におけるⅡ・Ⅲ判定の主な損傷事例を表-4.2、表-4.3 に示す。

表-4.2 管理橋梁の主なⅢ判定損傷事例

部位・部材区分		材料	判定区分Ⅲ		該当橋梁
			【早期措置段階】 構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。		
上部構造	主桁	コンクリート		例) 桁に多数のひびわれ、剥離・鉄筋露出が生じており、内部鋼材の腐食が広範囲で進行している状態。	63 1231-2号橋 66 鹿島橋 69 1233-2号橋
	床版	コンクリート			
下部構造	橋脚 橋台	コンクリート			
	基礎	コンクリート		例) 基礎部が流水のため著しく洗掘されている状態。	66 鹿島橋
支承部	本体	コンクリート			
	台座	コンクリート			

表-4.3 管理橋梁の主なⅡ判定損傷事例

部位・部材区分		材料	判定区分Ⅱ		該当橋梁
			【予防保全段階】 構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。		
上部構造	主桁	コンクリート		例) 桁にひびわれ、剥離・鉄筋露出が生じており、内部鋼材の腐食が進行している状態。	4 5-1号橋 38 1210-2号橋 89 2144-1号橋 177 前原橋
	床版	コンクリート		例) 部材同士の境界部から漏水・遊離石灰が生じている状態。	21 65-1号橋 81 2119-1号橋 123 2420-2号橋 136 2502-1号橋 137 1287-1号橋
下部構造	橋脚 橋台	コンクリート		例) 目視で容易に視認できる顕著なひびわれがあり、放置すると雨水の内部への侵入などにより確実に劣化が進行することが見込まれる状態。	77 2105-1号橋 83 2134-1号橋 134 1276-1号橋 146 1171-1号橋
	基礎	コンクリート		例) 基礎部が流水のため剥離している状態。	1 1-1号橋 51 1219-3号橋 61 1227-3号橋 87 2143-1号橋
支承部	本体	コンクリート		例) 橋脚支承部に異物（ビニール）が詰まっている状態。	54 1220-3号橋
	台座	コンクリート		例) 橋台沓座部に欠損がみられる状態。	89 2144-1号橋

§5 長寿命化修繕計画

5-1 老朽化対策

5-1-1 PDCAの実践

予防保全型管理を継続するためには、橋梁長寿命化計画の作成（Plan）、対策・点検等の実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）によるマネジメントサイクル（PDCA サイクル）の構築が不可欠となる。

本計画は P：Plan に位置し、立案した計画を基に今後も PDCA サイクルを継続する。

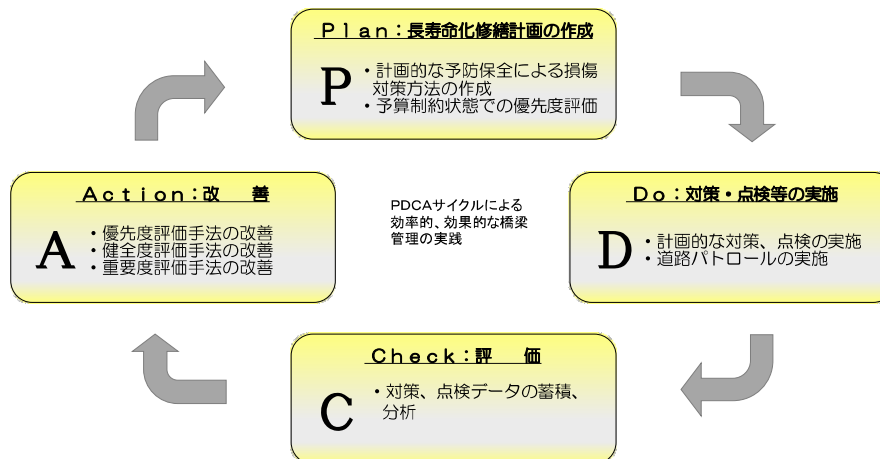


図-5.1 PDCA サイクルによる橋梁の維持管理

5-1-2 維持管理水準の設定

長寿命化修繕計画を立案するにあたり、目標とする管理水準を設定する。

維持管理水準は、H31.2 定期点検要領の「健全性の区分」にて設定する。理想的な目標としては、「健全性Ⅰ：当面の修繕は不要」レベルであるが、現状では健全性Ⅲがあること・補修工事予算との関係から、当面の目標は、健全性Ⅲは早期（5 年程度以内）に補強・修繕、健全性Ⅱは優先順位の高い施設から修繕を行い、「健全性Ⅱ：予防的な修繕が望ましい」を管理水準に設定する。

表-5.1 健全性の判定区分（目安）

健全性の区分	部材の状態	対策の分類	健全度（目安） （区分判定基準）
I	道路橋の機能に支障が生じていない状態。	当面の修繕は不要 定期点検による経過観察	良好、ほぼ良好 $80 < H I \leq 100$
II	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。	予防的な 修繕が望ましい	軽度 $60 < H I \leq 80$
III	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずるべき状態。	早期の修繕が必要	顕著 $20 < H I \leq 60$
IV	道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。	緊急に修繕が必要	深刻 $0 \leq H I \leq 20$

維持管理
水準

5-1-3 計画期間

前回長寿命化修繕計画（平成 30 年度）から現在（令和 3 年度）までの点検結果をもとに、「第 2 次国土交通省インフラ長寿命化計画（行動計画）（令和 3 年 6 月）」で必要となる計画期間：令和 3 年度～令和 7 年度を踏襲し、且つ来年度からの 5 箇年を計画するため、計画期間は令和 3 年度より令和 9 年度までの 7 年間とする。

5-1-4 対策優先度の設定

限られた予算の中で、健全度の低い橋梁の中から優先的に補修を実施していく橋梁を選定する必要があるため、補修を行う優先順位を設定する。

長寿命化修繕計画における補修順序は、健全性の区分Ⅳ→Ⅲ→Ⅱの順で行い、各健全性の区分の中での補修順序は、「健全度」及び「重要度」から定める補修優先度により設定する。

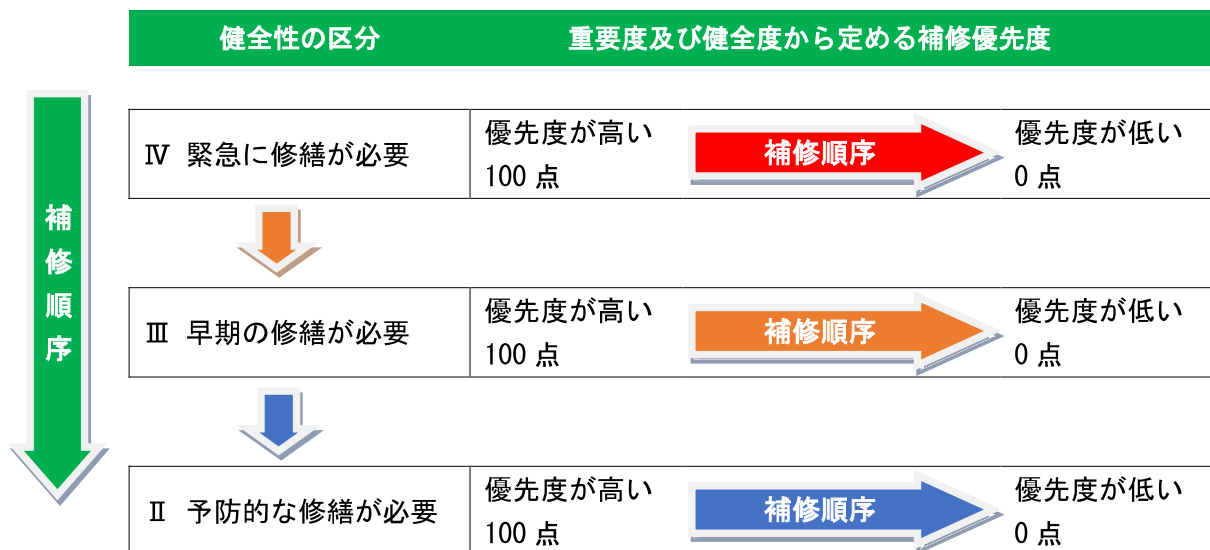


図-5.2 補修順序の考え方

(1) 健全度の設定

橋梁定期点検により確認された損傷に対して、その進み具合を 0 から 100 の間で評価した「損傷評価点」を算出する。「健全度」は、損傷評価点を 100 より減じた値として算出する。下図に損傷評価点および健全度のイメージを示す。

損傷の進み具合	良好	ほぼ良好	軽度	顕著	深刻
損傷評価点	0	25	50	75	100
健全度	100	75	50	25	0

図-5.3 損傷評価点および健全度のイメージ

(2) 重要度の設定

重要度は、路線の特徴（重要性）や立地条件、利用者・周辺住民に対する影響、被災時の影響、橋梁の耐久性を総合的に評価する指標と考える。

配点＝ $W1i \times W2i \times \text{評点}$

表-5.2 重要度の評価項目および評点

第 1 階層		第 2 階層		評価点の設定		
評価項目	補正係数 ($W1i$)	評価項目	補正係数 ($W2i$)	区分	評点	配点
重要性	1.00	平常時、被災時の利用性	1.00	緊急輸送道路上の跨道橋 ^{※2}	100	100
				一級町道 ^{※1}	80	80
				二級町道 ^{※1}	60	60
				その他 ^{※1}	40	40
				利用性が低い路線	0	0
被害波及性	0.60	交差物	0.70	鉄道、高速道路	100	42
				道路	50	21
				その他	0	0
		添架物	0.30	有	100	18
				無	0	0
耐久性	0.20	架設年次	0.40	～1939年	100	8
				1940年～1979年	50	4
				1980年～	0	0
		構造形式	0.20	ゲルバー桁	100	4
				2径間以上の単純桁	50	2
				その他	0	0
		躯体形式	0.40	パイルベント形式、石積み形式	100	8
				柱式、壁式	50	4
				その他	0	0
効率性 ^{※3}	0.20	交差物	1.00	鉄道	100	20
				道路	75	15
				河川	50	10
				その他	0	0

5-1-5 対策工法の設定方針

これまでの損傷が顕著になった段階で修繕を実施する対症療法的な対策に対して、橋梁の長寿命化や対策費用（ライフサイクルコスト）の縮減を実現するため、以下の視点で対策工法を設定する必要がある。

- 損傷が顕著になる前に、小規模な予防的補修を計画的に実施
- これまでより耐久性の高い材料の導入など、延命化に資する工法の検討
- より経済的で耐久性が高く、維持管理に優れている橋梁（ミニмумメンテナンスブリッジ化への将来的な転換）

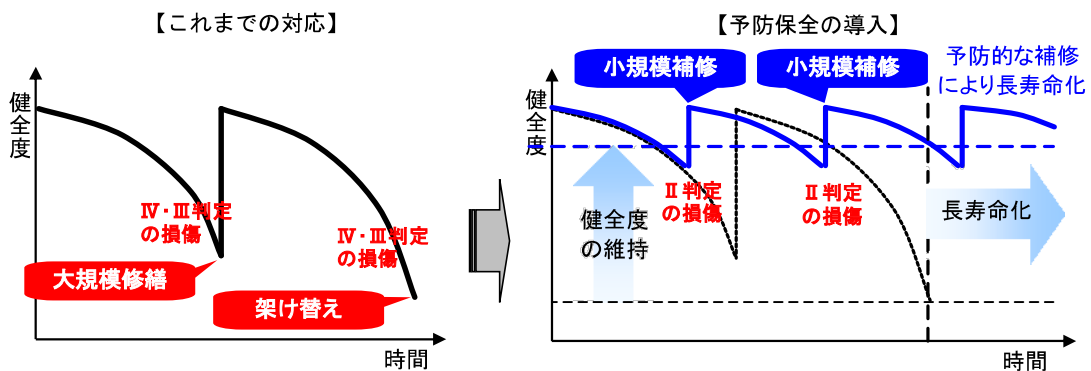


図-5.4 予防的対策による補修対策のイメージ

5-1-6 対策工法の概算工事費の設定

対策工法については、部材ごとに算出した健全度に応じた標準的な補修・補強工法を段階的（管理水準ごと）に設定する。

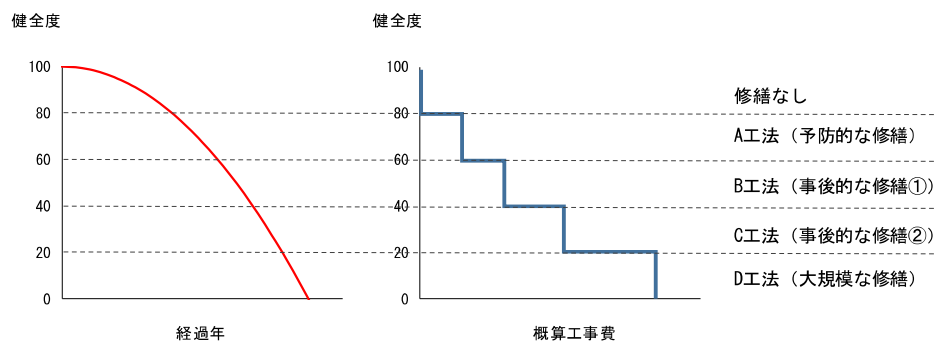


図-5.5 補修工事費設定のイメージ

5-1-7 橋梁架替え方針

(1) 稲葉地区橋梁の架替え

壬生町稲葉地区において実際に架替えを行った橋梁がある。この橋梁は稲葉地区の町道 5 号線横を流れる水路に架かる橋で、付近には今後も架替えが計画されている橋梁が多くある。そこで、架替え実績から橋面積あたりの単価を設定し、架替え費用を「個別の構造物ごとの点検・修繕等に関する計画」に反映する。



図-5.6 1225-2 号橋架替え状況

(2) 小規模橋梁の架替え

橋長 5m以下の小橋梁については、予防保全型で対策（補修）を実施するのではなく事後保全型で一気に対策（架替）を実施する方法も考えられる。特に利用頻度が少ない田んぼの水路に架かるRC床版橋や、架設年次が古く、構造的に問題のある橋梁（下部工が石積み）などは補修よりも架替えの方が将来的に好ましい場合もある。

対象とするのは壬生町で全体の 60%を占める橋長 5m以下のRC床版橋やボックスカルバートで、以下のケースで架替え検討する。

- ① RC床版橋の上部工だけを架替える場合
- ② プレキャストボックスカルバートに架替える場合

5-2 新技術等の活用

新技術等の活用検討は、「NETIS 登録技術」、「点検支援技術性能カタログに掲載されている技術」に加え、メーカーの新製品等で従来技術と比較してコストの縮減や事業の効率化等が期待される技術等を対象とし、以下の方針で実施する。

- ① 管理橋梁の修繕、更新、撤去事業では、コスト縮減や事業効率化を図るため、従来工法のみでなく新工法や新材料などの新技術等を加えた比較検討を実施する。
- ② 法定点検と補修設計時に、全ての橋梁に対してコスト縮減や事業効率化を図るために新技術等の活用が可能か検討を実施する。

5-2-1 伸縮装置取替工

本町の管理橋梁で、橋長 15m 未満の橋梁は約 90%を占めている。15m 未満の橋梁の伸縮装置取替では、埋設型伸縮装置の採用が一般的であるが、従来の「弾性合材」に対し、新技術で「ポリブタジエン系樹脂材」を用いた製品がある。

伸縮装置本体の損傷もしくは下部工の漏水・滞水が確認された橋梁は計 8 橋であり、従来工法と新技術とを比較した結果、約 600 万程度の縮減が図れる。

令和 9 年度までに、修繕予定の 2 橋で新技術を活用することで、約 100 万円の縮減を目指す。

表-5.3 伸縮装置取替工費比較表

伸縮装置取替工		工費（千円）	判定
従来工法	埋設型（弾性合材）	20,064	
新技術	埋設型（ブタジエン樹脂）	14,362	○
縮減額		5,702	

5-3 費用の縮減に関する具体策

●通学橋（1 級町道 6 号線）の集約・撤去

1 級町道 6 号線が一級河川黒川を渡河する位置に架橋されている「通学橋」は過去に台風による豪雨災害により数回被災を受けている橋梁である。

表-5.4 通学橋被災履歴

被災年度	被災内容	復旧内容
平成 3 年	桁流出（A1～P7：7 径間分） 下部工損傷（A1～P6）	桁架替え（A1～P4：4 径間にした） 下部工復旧（A1～P3）
平成 10 年	桁流失（P14～A2：4 径間分） 下部工損傷（P15、P16、P17、A2） 護岸損傷（A2 側）	桁架替え（P14～A2：3 径間にした） 下部工復旧（P15、P16、A2） 護岸復旧（A2 側）
平成 11 年	下部工損傷（P7）	下部工復旧（P7）
平成 14 年	桁流失（P8～P14：6 径間分） 下部工損傷（P9～P13）	桁架替え（P8～P12：4 径間にした） 下部工復旧（P8～P11）、旧 P14 撤去
平成 27 年	桁流失（P11～P13：2 径間分） 桁損傷（P10～P11、P13～A2） 下部工損傷（P12～P13）	桁架替え（P10～A2：4 径間） 下部工復旧（P12～P13）
令和元年	桁損傷（P9～P10） 下部工損傷（P10,11） 高欄損傷（P7～P13）	高欄取替（P7～P13）

本橋の 1～2km 範囲内の上下流には、一般県道 3 号線（宇都宮亀和田栃木線）と一般県道 221 号（国谷家中停車場線）が渡河しており、今後も激甚化する災害が発生するたびに補修を繰り返す方針に加え、集約撤去についても比較案として、維持管理費用の縮減について検討を行っていく。

令和 7 年度までに、迂回路が存在し交通量が少ない 1 橋を集約・撤去することで、維持管理費約 210 万円の縮減を目指す。



写真-5.1 側面全景



写真-5.2 橋面全景

●安塚歩道橋（町道 2-555 号線）の撤去

本橋は、街中に架設されており、利用者が多く撤去するのが難しいため、引続き点検・修繕を行い維持管理していく。

§6 長寿命化修繕計画による効果

壬生町の管理施設の長寿命化修繕計画による効果を表-6.1 に示す。今後50年間に於ける、従来の事後保全型管理と予防保全型管理の必要費用を以下に示す。

表-6.1 事後保全型と予防保全型の必要費用

	事後保全型	予防保全型	縮減効果
必要費用	20.5 億円	10.4 億円	10.1 億円

長寿命化計画修繕計画の実施による維持修繕費のコスト縮減効果を図-6.1 に示す。

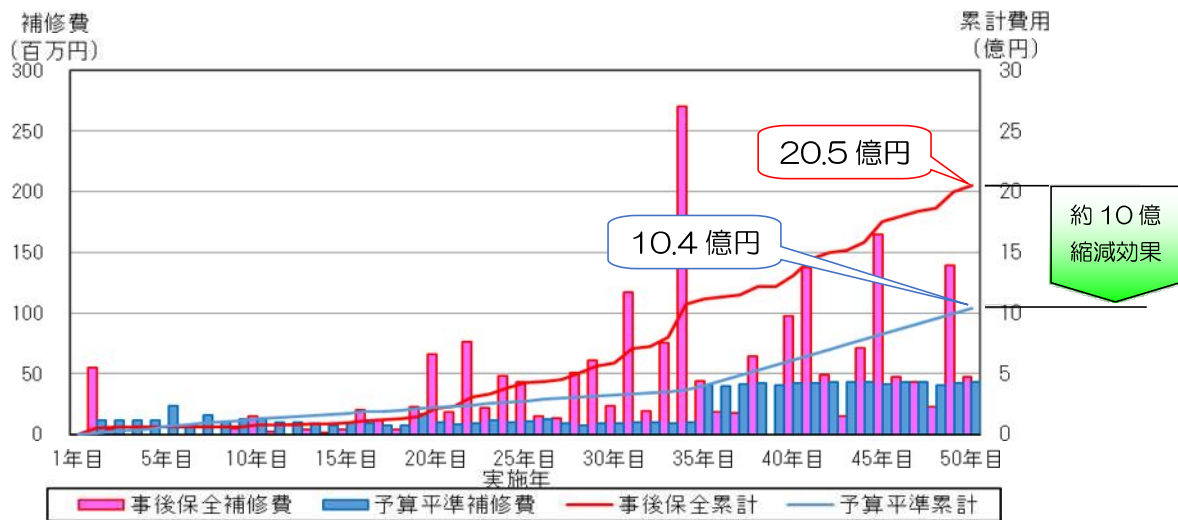


図-6.1 長寿命化修繕計画による縮減効果

§ 7 個別の構造物ごとの点検・修繕等に関する計画

計画全体の方針を踏まえ、従来からの事後保全型補修から軽微な損傷のうちに補修を実施することで総補修費が抑えられる予防保全型補修への転換と長寿命化によるコスト縮減を図り、効率的な維持管理、地域の交通ネットワークの安全性・信頼性を確保していく。

個別の構造物ごとに以下の事項を整理し、壬生町が管理する施設（道路橋・横断歩道橋）に対し令和３年度（2021年度）～令和９年度（2027年度）までの点検、修繕時期を策定し、構造物の長寿命化を図る。

なお、上記期間は以下の要件を網羅した期間である。

- ・「第２次国土交通省インフラ長寿命化計画（行動計画）（令和３年６月）」で必要となる令和３年度～令和７年度の５箇年を計画
- ・来年度から５箇年の点検、修繕時期を策定

①施設の諸元

施設名称、架設年度、延長等

②直近における点検結果および次回点検時期

直近に実施した点検の実施年度、判定区分、次回点検の実施予定年度等

③対策内容

修繕、更新、集約化・撤去、監視などの対策のうちいずれかの主な措置の内容等

④対策の着手・完了予定年度

措置の着手年度および完了年度等

⑤対策に係る全体概算事業費

措置の内容に要する概算費用等

点検時期及び補修時期

	橋梁名称	路線名	有効 幅員 (m)	橋長 (m)	最新 点検年度	健全 性	長寿命化修繕計画										概算工事費 (百万円)	主な補修内容
							点検スケジュール（●は定期点検、○は橋梁補修、◎は架替え）											
							2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027			
1	1-1号橋	一級町道1号線	6.1	2.3	R2年	Ⅱ		●					●					
2	5-1号橋	一級町道5号線	38.0	3.0	R5年	Ⅱ	●				●							
3	5-2号橋	一級町道5号線	34.4	4.8	R5年	Ⅱ	●				●							
4	5-3号橋	一級町道5号線	3.1	5.5	R3年	Ⅱ			●					●				
5	5-4号橋	一級町道5号線	4.3	4.4	R3年	Ⅱ			●					●				
6	6-2号橋	一級町道6号線	4.0	2.2	R2年	Ⅱ		●					●					
7	9-1号橋	一級町道9号線	10.0	7.3	R5年	Ⅱ	●				●							
8	52-1号橋	二級町道52号線	8.6	4.5	R5年	Ⅱ	●				●							
9	53-1号橋	二級町道53号線	5.0	3.4	R4年	Ⅰ			●					●				
10	61-1号橋	二級町道61号線	5.0	8.4	R3年	Ⅱ		●					●					
11	65-1号橋	二級町道65号線	4.0	7.3	R4年	Ⅱ			●					●				
12	66-1号橋	二級町道66号線	4.0	7.3	R4年	Ⅰ			●					●				
13	67-1号橋	二級町道67号線	6.0	4	R2年	Ⅱ		●					●					
14	67-2号橋	二級町道67号線	8.2	5.7	R2年	Ⅱ		●					●					
15	67-3号橋	二級町道67号線	5.0	4.5	R4年	Ⅰ			●					●				
16	1127-1号橋	町道1-127号線	5.0	2.5	R2年	Ⅱ		●					●					
17	1127-2号橋	町道1-127号線	5.0	5.5	R4年	Ⅰ			●					●				
18	1131-1号橋	町道1-131号線	5.5	5.2	R2年	Ⅱ		●					●					
19	1172-1号橋	町道1-172号線	7.7	2.7	R4年	Ⅰ			●					●				
20	1312-1号橋	町道1-312号線	3.5	3.3	R4年	Ⅰ			●					●				
21	1204-1号橋	町道1-204号線	4.5	3.2	R4年	Ⅰ			●					●				
22	1206-1号橋	町道1-206号線	10.9	2.8	R2年	Ⅰ		●					●					
23	1207-1号橋	町道1-207号線	3.7	4	R2年	Ⅱ		●					●					
24	1210-1号橋	町道1-210号線	6.2	4.1	R2年	Ⅱ		●					●					
25	1210-2号橋	町道1-210号線	1.9	7.0	R4年	Ⅱ			●					●				
26	1211-1号橋	町道1-211号線	2.5	6.4	H29年	Ⅰ		○					●			14.0	架替	
27	1211-2号橋	町道1-211号線	2.4	2.6	R4年	Ⅰ			●					●				
28	1212-1号橋	町道1-212号線	2.5	6.0	H29年	Ⅰ		○			●					12.0	架替	
29	1212-2号橋	町道1-212号線	3.0	3.1	R4年	Ⅱ			●					●				
30	1214-1号橋	町道1-214号線	3.1	3.3	R4年	Ⅰ			●					●				
31	1215-1号橋	町道1-215号線	2.1	2.5	R4年	Ⅰ			●					●				
32	1215-2号橋	町道1-215号線	4.5	4.6	R4年	Ⅰ				●					●			
33	1215-3号橋	町道1-215号線	4.5	3.7	R4年	Ⅱ				●					●			
34	1215-4号橋	町道1-215号線	1.8	3	R4年	Ⅰ				●					●			
35	1216-1号橋	町道1-216号線	5.2	2.7	R4年	Ⅰ				●					●			
36	1219-1号橋	町道1-219号線	2.7	4	R4年	Ⅰ			●						●			
37	1219-2号橋	町道1-219号線	2.0	7.0	R4年	Ⅱ				●					●			
38	1219-3号橋	町道1-219号線	2.3	2.9	R4年	Ⅱ				●					●			
39	1220-1号橋	町道1-220号線	2.5	3.2	R4年	Ⅰ				●					●			
40	1220-3号橋	町道1-220号線	2.2	6.7	R4年	Ⅰ				●					●			
41	1220-4号橋	町道1-220号線	3.8	3.3	R4年	Ⅰ				●					●			
42	1225-1号橋	町道1-225号線	7.7	3.4	R5年	Ⅱ	●				●							
43	1225-2号橋	町道1-225号線	4.5	9.2	R5年	Ⅰ					●							
44	1226-1号橋	町道1-226号線	3.0	2.3	R4年	Ⅰ				●					●			
45	1227-1号橋	町道1-227号線	2.4	3.3	R4年	Ⅱ				●					●			
46	1227-2号橋	町道1-227号線	5.0	8.5	R5年	Ⅰ				●								
47	1227-3号橋	町道1-227号線	3.2	2.3	R4年	Ⅱ				●					●			
48	1231-1号橋	町道1-231号線	2.1	3.3	R5年	Ⅱ					●							
49	1231-2号橋	町道1-231号線	2.2	7.2	H30年	Ⅲ					○						掛替（圍場整備）	
50	1232-1号橋	町道1-232号線	4.0	3.1	R4年	Ⅰ				●					●			
51	鹿島橋	町道1-232号線	2.7	6.2	H30年	Ⅲ					○						掛替（圍場整備）	
52	1233-1号橋	町道1-233号線	5.4	3.6	R5年	Ⅱ				●					●			
53	1233-2号橋	町道1-233号線	2.2	5.4	H30年	Ⅲ					○						掛替（圍場整備）	
54	昭和橋	町道1-234号線	2.8	5.8	R4年	Ⅱ				●	○						掛替（圍場整備）	
55	権兵衛橋	町道1-235号線	13.0	3.5	R5年	Ⅱ	●				●							
56	1240-1号橋	町道1-240号線	4.0	5.2	R4年	Ⅰ				●					●			
57	2105-1号橋	町道2-105号線	6.3	4.1	R5年	Ⅱ	●				●							
58	2112-1号橋	町道2-122号線	4.0	4.1	R4年	Ⅰ				●					●			
59	2112-2号橋	町道2-122号線	5.5	5.7	R2年	Ⅱ		●					●					
60	2115-1号橋	町道2-115号線	5.0	9.5	R5年	Ⅱ	●				●							
61	2119-1号橋	町道2-119号線	4.0	7.3	R4年	Ⅰ				●					●			
62	2132-1号橋	町道2-132号線	2.5	3.6	R4年	Ⅱ				●					●			

	橋梁名称	路線名	有効 幅員 (m)	橋長 (m)	最新 点検年度	健全 性	長寿命化修繕計画										概算工事費 (百万円)	主な補修内容
							点検スケジュール（●は定期点検、○は橋梁補修、◇は架替え）											
							2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027			
63	2134-1号橋	町道2-134号線	4.0	2.4	R4年	I				●				●				
64	2135-1号橋	町道2-135号線	2.7	2.2	R4年	I				●				●				
65	2141-1号橋	町道2-141号線	1.8	2.0	R4年	I				●				●				
66	2142-1号橋	町道2-142号線	2.8	2.2	R4年	I				●				●				
67	2143-1号橋	町道2-143号線	1.9	2.1	R4年	Ⅱ				●				●				
68	2143-2号橋	町道2-143号線	1.7	2.2	R4年	Ⅱ				●				●				
69	2144-1号橋	町道2-144号線	1.9	2.2	R4年	Ⅲ				●	○			●	0.1	ひび割れ補修		
70	2149-1号橋	町道2-149号線	3.7	2.3	R5年	I					●							
71	2169-1号橋	町道2-169号線	6.1	7.4	R5年	Ⅱ	●				●							
72	清水大橋	町道2-191号線	5.0	23.5	R5年	Ⅱ	●				●							
73	3104-1号橋	町道3-104号線	4.2	2.8	R2年	Ⅱ		●				●						
74	3107-1号橋	町道3-107号線	7.6	2.4	R5年	I	●				●							
75	3108-1号橋	町道3-108号線	4.5	2.1	R4年	I				●				●				
76	3110-1号橋	町道3-110号線	7.6	2.3	R5年	Ⅱ	●				●							
77	3115-1号橋	町道3-115号線	6.0	2.4	R5年	Ⅱ	●				●							
78	3118-1号橋	町道3-118号線	1.9	5.5	R4年	I				●				●				
79	3189-1号橋	町道3-189号線	4.4	2.7	R4年	I				●				●				
80	3195-1号橋	町道3-195号線	5.0	2.3	R2年	I		●					●					
81	3239-1号橋	町道3-239号線	5.0	3.3	R4年	I				●				●				
82	3240-1号橋	町道3-240号線	5.0	3.3	R2年	Ⅱ		●					●					
83	3254-1号橋	町道3-254号線	5.0	3.6	R4年	I				●				●				
84	2416-1号橋	町道2-416号線	4.0	5.3	R4年	I				●				●				
85	2420-1号橋	町道2-420号線	4.0	5.2	R4年	I				●				●				
86	2420-2号橋	町道2-420号線	4.0	7.3	R4年	I				●				●				
87	3319-1号橋	町道3-319号線	4.1	4.9	R4年	I				●				●				
88	3323-1号橋	町道3-323号線	4.4	2	R4年	I				●				●				
89	3327-1号橋	町道3-327号線	5.0	2.9	R4年	I				●				●				
90	1260-1号橋	町道1-260号線	4.4	4.1	R4年	I				●				●				
91	1262-1号橋	町道1-262号線	4.0	5.2	R4年	I				●				●				
92	1254-1号橋	町道1-254号線	5.0	4	R4年	I				●				●				
93	1268-1号橋	町道1-268号線	4.5	4.5	R4年	I				●				●				
94	2427-1号橋	町道2-427号線	4.5	4.1	R4年	I				●				●				
95	2455-1号橋	町道2-455号線	5.0	4.5	R4年	I				●				●				
96	1282-1号橋	町道1-282号線	3.6	4.6	R4年	I				●				●				
97	1276-1号橋	町道1-276号線	4.6	4	R4年	I				●				●				
98	1280-1号橋	町道1-280号線	5.0	6.4	R4年	I				●				●				
99	2502-1号橋	町道2-502号線	4.0	10.1	R4年	Ⅱ				●				●				
100	1287-1号橋	町道1-287号線	3.1	5.4	R4年	Ⅱ				●				●				
101	1288-1号橋	町道1-288号線	7.2	2.3	R2年	Ⅱ		●					●					
102	1291-1号橋	町道1-291号線	5.0	8	R4年	Ⅱ		●					●					
103	1297-1号橋	町道1-297号線	4.5	3	R4年	I				●				●				
104	1294-1号橋	町道1-294号線	3.0	2.4	R4年	I				●				●				
105	1293-1号橋	町道1-293号線	3.1	2.4	R4年	I				●				●				
106	1303-1号橋	町道1-303号線	4.9	4.0	R4年	Ⅱ				●				●				
107	1261-1号橋	町道1-261号線	6.7	2.3	R2年	Ⅱ		●					●					
108	1302-1号橋	町道1-302号線	3.7	3.5	R4年	I				●				●				
109	1171-1号橋	町道1-171号線	6.2	2.4	R2年	Ⅱ		●					●					
110	1309-1号橋	町道1-309号線	4.5	4.5	R2年	Ⅱ		●					●					
111	コブ田橋	町道3-391号線	5.0	23.8	R5年	Ⅱ	●				●							
112	5-5号橋	一級町道5号線	16.4	5.3	R2年	Ⅱ		●					●					
113	1306-1号橋	町道1-306号線	5.0	7.4	R5年	Ⅱ	●				●							
114	1320-1号橋	町道1-320号線	12.0	2.3	R1年	Ⅲ	●				◇				11.0	架替		
115	1321-1号橋	町道1-321号線	6.0	4.0	R5年	Ⅱ	●				●							
116	惣宮橋	町道3-160号線	6.0	25.3	R1年	Ⅱ	●					●						
117	八幡橋	町道3-443号線	5.0	25.3	R1年	Ⅱ	●					●						
118	3446-1号橋	町道3-446号線	6.0	2.8	R2年	I		●					●					
119	2552-1号橋	町道2-552号線	4.0	7.3	R4年	I				●				●				
120	2556-1号橋	町道2-556号線	4.0	7.5	R4年	I				●				●				
121	2557-1号橋	町道2-557号線	4.0	7.3	R4年	I				●				●				
122	3462-1号橋	町道3-462号線	5.0	5.0	R2年	Ⅱ		●					●					
123	1327-1号橋	町道1-327号線	4.8	4.0	R4年	Ⅱ				●				●				
124	1327-2号橋	町道1-327号線	4.5	2.3	R4年	Ⅱ				●				●				
125	東浦橋	町道2-571号線	5.0	21.4	R1年	I	●					●						

	橋梁名称	路線名	有効 幅員 (m)	橋長 (m)	最新 点検年度	健全 性	長寿命化修繕計画										概算工事費 (百万円)	主な補修内容
							点検スケジュール（●は定期点検、○は橋梁補修、◎は架替え）											
							2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027			
126	恵川橋	町道3-461号線	6.5	27	R1年	Ⅱ	●						●					
127	1328-1号橋	町道1-328号線	16.6	2.9	R1年	Ⅱ	●						●					
128	1329-1号橋	町道1-329号線	21.0	2.9	R2年	Ⅱ		●										
129	1329-2号橋	町道1-329号線	5.0	8.1	R2年	Ⅱ		●										
130	3483-1号橋	町道3-483号線	16.6	2.9	R3年	Ⅱ		●										
131	3484-1号橋	町道3-484号線	18.6	2.9	R1年	Ⅱ	●						●					
132	2577-1号橋	町道2-577号線	8.7	5.4	R3年	Ⅱ		●										
133	2578-1号橋	町道2-578号線	9.8	5.4	R1年	Ⅱ	●						●					
134	国谷宮前橋	町道2-186号線	7.0	42.2	R3年	Ⅱ			●									
135	鶴時橋	町道2-579号線	5.0	23.6	R1年	Ⅱ	●						●					
136	今井橋	町道3-523号線	10.5	2.5	R1年	Ⅱ	●							●				
137	古川橋	町道3-523号線	14.0	8.3	R1年	Ⅱ	●						●					
138	新道橋(車道橋)	一級町道3号線	6.0	26.5	R1年	Ⅰ	●							●				
139	新道橋(歩道橋)	一級町道3号線	2.5	26.5	R1年	Ⅰ	●							●				
140	前原橋	町道1-337号線	6.0	4.2	R2年	Ⅱ		●						●				
141	2192-1号橋	町道2-192号線	3.0	5	R4年	Ⅰ				●						●		
142	3220-1号橋	町道3-220号線	4.5	3.4	R2年	Ⅱ		●						●				
143	3213-1号橋	町道3-213号線	5.2	3.4	R2年	Ⅱ		●						●				
144	3473-1号橋	町道3-473号線	17.2	3.4	R1年	Ⅱ	●						●					
145	通学橋	一級町道6号線	2.0	156.0	R6年	Ⅳ					●	●	撤去			80.0	撤去	
146	安塚歩道橋	町道2-555号線	1.5	39.8	R5年	Ⅱ					●							